
奇跡の手術

STR

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇跡の手術

【Nコード】

N4437M

【作者名】

STR

【あらすじ】

地方の病院に勤務する一人の男。
そんな彼の元へ一人の急患が。

ここは地方の小さな病院だ。しかし小さいといってもここら辺では一番大きかった。私はそこに勤務する医者だ。

私は人の命を救うこの仕事には誇りを持っている。

私が小さい頃、父が事故にあった。

三時間に及ぶ大手術だったと聞かされている。この話を聞いて私はいつか自分も人の命を助けるような仕事に就きたいと思った。

必死に勉強しこの職業に就いた。大変なことも多いが、患者の笑顔を見ると疲れも何もかも忘れてしまう。

この仕事は私の天職だと思っている。

私が廊下を歩いていると、救急車特有のサイレン音が聞こえてきた。

「先生、急患です」

私は患者の下へ走った。

近くに住んでいる老人で急に倒れたんだという。私は早速診察をした。

診察の結果、脳の血管が破れ内出血を起こしているようだった。

早急に手術が必要だ。

私は患者とともに手術室へと向かった。

患者が手術台の上に乗せられるとまばゆいばかりの光が患者に向けられた。

私は正直この手術には自信が無かった。出血した箇所は奥まっており、しかも脳だ。私は脳外科の医師でない。

本来なら私がやるべき手術ではないのだが人が足りなく、ほかの病院に移そうにも近くの病院でも一時間以上かかってしまう。これでは、患者は病院に着くまでもたない。

以上の理由で私が担当することになったのだが、こんな難しい手術が私にできるのか不安だ。

しかし、ここで弱音を吐いてもしかたない。私にはできる限りのことをやる以外道はない。何より私には人の命を救うという使命がある。

私はメスを手に取り患者の頭部へメスを入れた。私が一度脳の手術を見学したこともあつてか手術は順調に進んだ。

しかし、患者の脳波に乱れが見えた。

私は急に恐怖感に襲われた。もしも私がこの手術を失敗してしまったら。患者の家族は私を責めるだろうか。こんな小さな病院でも手術はやるが、こんな大手術は初めてだ。

私はここにきてプレッシャーという物に押し潰されてしまいそうになった。

ここまできてプレッシャーなんか押し潰されそうになってどうする。正気を保つのだ。今私がやることは自分の身を案じることではない患者のために最善を尽くすことだ。

そう自分に言い聞かせ私は再び手術を開始した。

数時間後。

手術は成功した。奇跡だった。能の手術の経験のない私がこんな難しい手術を成功させたのだ。

手術中の記憶はあまりない。ただ、がむしゃらに患者を助けたいと思っていたことは分かる。もしかしたら神が私に力を貸してじゅれたのかもしれない。

同僚は私に「お疲れ様」とねぎらいの言葉をかけてくれる。

私は眠ることにした。なにせ何時間もかかった大手術だ。こんな手術は私の人生の中で一度あるかないかのものだ、疲れて当然である。

明日、患者に会うことを楽しみにしつつ眠りについた。

そして、次の日。

私は患者と対面した。

そこは、病室では無かった。

そこに、患者の笑顔は無かった。

泣き声だけが響く。

患者の家族は私を責めた。

なぜだ、なぜだ。手術は成功したはずだ。

私はほかの医師から死因を聞いた。

死因は麻酔だった。

量は間違っていない。

患者の体質だった。

（後書き）

最後まで読んでいただきありがとうございます。
感想をいただければありがたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4437m/>

奇跡の手術

2011年1月27日10時08分発行